

私は、生き物が大好きです。

家には、犬がいます。

また、熱帯魚や小さなエビも買っています。

子供の頃は、昆虫を追いかけたりザリガニを捕まえたりした日々でした。また、家に帰ると捨て犬だったの犬やその犬の子供たちとも一緒に過ごしたことが今では良い思い出になっています。

今日うさぎの涙というお話をします。

今から10数年前に勤めていた学校に、うさぎがいました。白くてとてもかわいいうさぎでした。私は、飼育委員会の担当の先生でしたので毎日世話をしました。餌や水がなくなったら大変なので、土日に大好物のチンゲンサイを買って届けたり、寒さを防ぐために藁を引いたりしていました。

ある時、そのうさぎを触っていると足のもものところに丸い大きなこぶがあるので。それが2つあるのです。すぐに病院へ行くとガンだと分かり手術することになりました。手術後、うさぎの顔には丸いカバーがかけられていて、傷口がなめられないようになっています。メスを入れた皮膚の周りの毛は剃られていて縫った後が分かりました。そして、冬休みの直前だったので手術後のうさぎを私の家で様子を見ることになりました。

手術した日の夜、ダイニングで飼っていたうさぎの部屋から「バタンバタン」と何度も音がするのです。気になってうさぎの様子を見に行くと麻酔が切れてとても痛がっているのです。よっぽど痛かったのでしょう。私は、初めてうさぎの涙を見ました。うさぎは、痛みをこらえて一生懸命生きようとしていたのです。

その姿を見て、私はかわいそうになり、うさぎを毛布にくるんで抱っこをして一緒に寝てあげました。そのときも、うさぎは涙を浮かべたように見えました。

その後、うさぎは、元気を取り戻し、無事自分の小屋へ帰ることができました。

私が読んだ本に

「動物の中で悪いやつが、たった一ぴき、たった一頭いないのは、みんな一生懸命いきとるからや。人間もいっしょや。一生懸命いきとるやつに悪いやつはおらん」と

ぜひ、「一生懸命生きるとは…」考えてもらえると嬉しいです。